

「コロナ禍だからこそ主体性」

今から約一年前、校長室に当時の一年C組の生徒が数名

やってきました。「主体性」という言葉を常に口にしていた私に、それについて質問をするためです。

生徒たちが来る前に、私は校長室の床の上に手袋の片方をわざと落としておきました。生徒たちがやってきました。私は彼らを招き入れ、ソファアームに座らせました。そして、「主体性とは何か」と尋ねてきた生徒たちにこう言いました。

「校長室に入ってくるときに、床の上に手袋が落ちていたよね。だれも拾わなかったけど、おかしいと思わなかった？ おかしいと自分で判断して、勇気を出して行動に移すことが主体性だよ。」

掃除の時間に、その意義を考えて自ら進んで取り組むのは「自主性」です。掃除の時間に限らず、汚れに気付いたら美しくする行動を起こすのは「主体性」です。瑞浪北中の生徒に私が求めているのは「主体性」。自分の判断や意思で行動におこすことが、これから生きる上で大切だと思うからです。

昨日の昼の放送で、意見箱に寄せられた意見に対して生徒会長のM・Mさんが回答をしました。どの意見に対しても誠実に対応していることと、その回答が「さすがリーダーだ」と思わせる内容だったことがすばらしいと感じました。

その回答を聞いていてわかったのですが、投書の中に「主体性≡自由」だととらえたものがあつたとのこと。その意見に対して、M・Mさんは丁寧かつ適切に回答していました。私は、全校のリーダーとしての意識の高さをその回答からひしひしと感じました。

主体性は自由を連想させるかもしれませんが、しかし、自由とは違うと私は思います。「私のものではないので拾わない」では、何も状況は変化しません。「主体性は、自分や周りの向上につながるものでなければならぬ」と私は考えています。

「落ちているから拾ってあげよう」「汚れているからきれいにしよう」「わからないので復習しよう」「やるべきことがあからいつもより早く行こう」などと現状が好転するように自分で判断し、行動することが「主体性」なのです。

新型コロナウイルス感染症の影響で、いろいろなことに制約や制限が生まれています。「だから主体性が発揮できない」という声が聞こえてきそうです。しかし、私はその逆だと思っています。制約や制限があるからこそ、主体性を発揮するのです。新しい生活様式や新しい学習の仕方もそこから見つかるものです。「コロナ禍だからこそ主体性」ですね。（十二月九日 記）